

2025年度 大学院入学試験問題【I期】

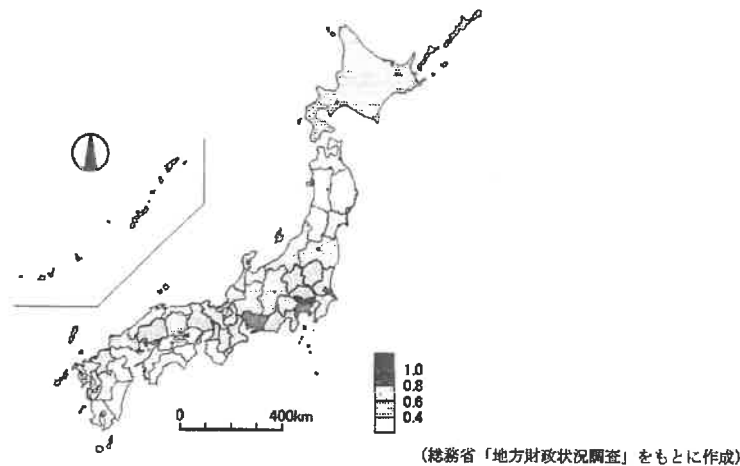
文学研究科 地理学専攻 (博士前期課程)

科目：論文：専門科目 (人文地理学) (辞書使用=不可) [人文地理学の分野について解答すること。]

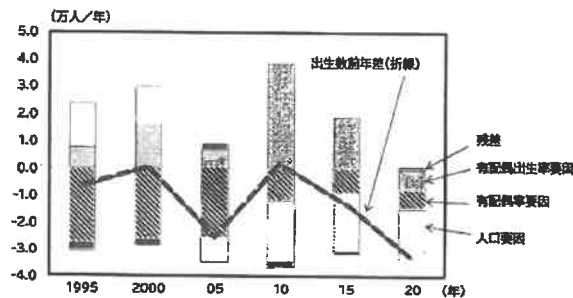
解答用紙は1間につき1枚を使用し、出題番号を明記すること。

以下の設問に全て答えよ

- I あなたの大学院における研究課題について、research question, research method, survey method の区別を意識して説明せよ。
- II 人文地理学における実証主義、行動主義、人文主義のアプローチについて、それぞれのアプローチが登場した経緯を踏まえつつ、その特徴を説明せよ。
- III 下記の図は、日本の都道府県別財政力指数(2019年)の分布を表したものである。財政力指数とは地方公共団体の財政力を示す指数で、指数が高いほど財源に余裕があるといえる。この分布図から推察できる日本の地域構造の特徴を読み取り、さらにその背景について論究してみよ。



- IV 下記の図は、日本の出生数の増減を要因分解したものである。この図から出生数の減少をもたらしている要因を読み取り、さらにその背景について論究してみよ。



- (備考) 1. 総務省「国勢調査」、厚生労働省「人口動態統計」により作成。
2. 母の年齢が15歳から49歳までの出生が対象。各年の数値は、5年前との数値差を年率換算したものである。
各要因については、
出生数 $=\sum_{a} \text{人口}_a \times \text{有配偶率}_a \times \text{有配偶出生率}_a$
(数字aは年齢aにおける値であることを表し、 $\sum_a$ は年齢別値の総和を表す。)
であることから
人口要因 $=\sum_a \Delta \text{人口}_a \times \text{有配偶率}_a \times \text{有配偶出生率}_a$
有配偶率要因 $=\sum_a \text{人口}_a \times \Delta \text{有配偶率}_a \times \text{有配偶出生率}_a$
有配偶出生率要因 $=\sum_a \text{人口}_a \times \text{有配偶率}_a \times \Delta \text{有配偶出生率}_a$
とした。ここで、 Δ は5年間の増減の年率換算値を表す。

(内閣府「令和4年度経済財政白書」に一部加筆)